

富山市立図書館 山田孝雄文庫セミナー
2021年10月24日

古典籍のかたち

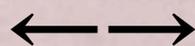
入口敦志

国文学研究資料館

古典籍のかたち

書誌

内容



外観

記録
日記
和歌
物語
随筆
など

料紙
大きさ
装訂
表記
など

古典籍のかたち

・装訂 代表的なもの

卷子本(折本) 粘葉装 列帖装 袋綴

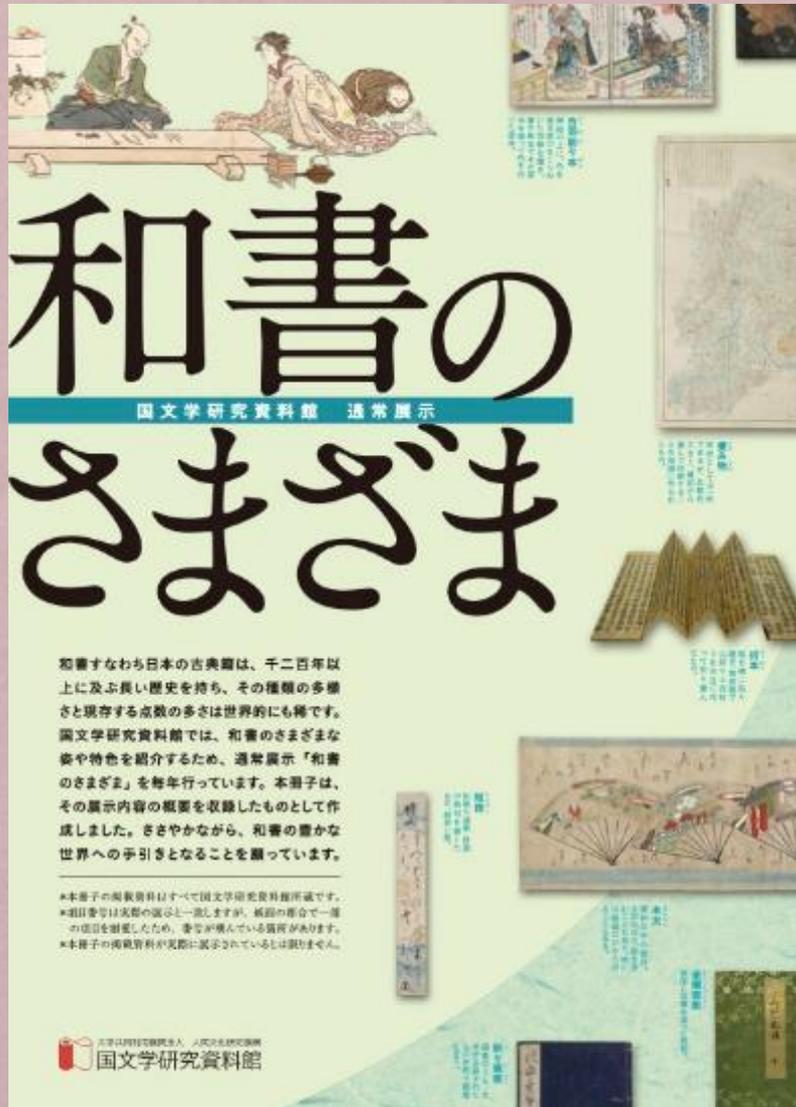
かんすぼん(おりほん) でっちょうそう れっじょうそう ふくろとじ

・表記

漢字 カタカナ ひらがな

古い > 新しい (出現順)

代表的な装訂



『和書のさまざま』

国文学研究資料館・通常展示

国文学研究資料館企画広報室 編

2018年12月25日発行

リポジトリにてPDF版公開中

代表的な装訂

六半本(枳形本)



後醍醐九十賀和歌

六半本
 全紙を長辺で三等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて冊子本としたもの。全紙の六分の一の大きさなので、六半本(六つ半本)と言う。また、形がほぼ正方形であることから枳形本とも呼ぶ。

四半本



新百人一首

四半本
 全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。全紙の四分の一の大きさなので、四半本(四つ半本)と言う。

規格型の写本

卷子本



宗安小歌集



表紙

卷子本
 紙を横に貼り継ぎ、左端に付けた軸を中心に丸く巻いたもの。右端に表紙を付けて全体をくるむ。

列帖装



新百人小歌

右を二つ以上並べ、折り目の穴に糸などを通して綴じる

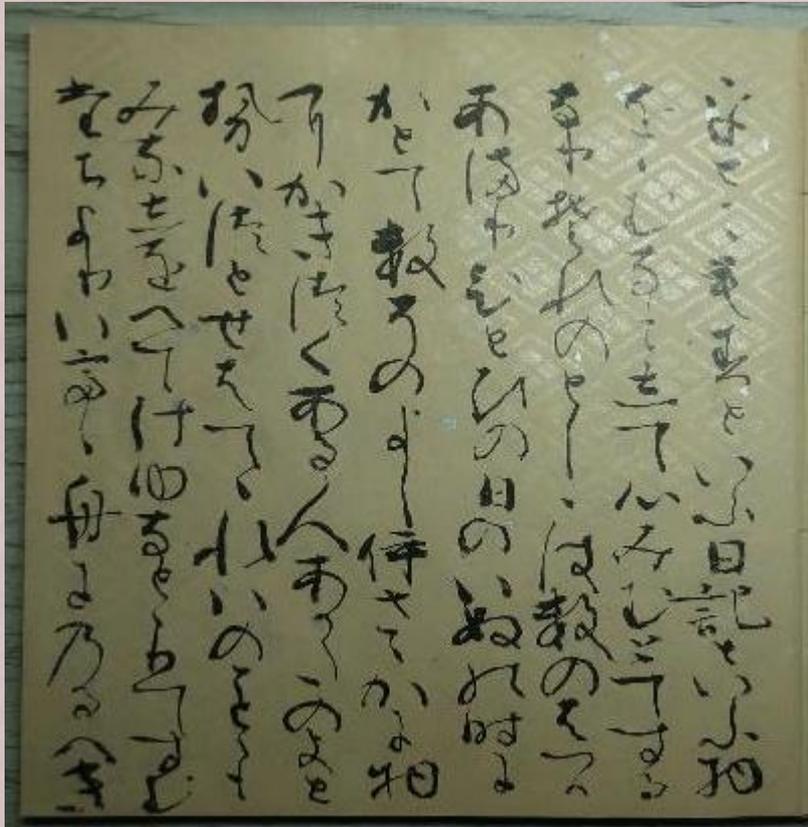


複数枚を重ねて二つ折り

列帖装
 紙を複数枚重ねて二つ折りにしたものを二つ以上並べ、糸などで綴じたもの。

『土左日記』最古の写本

本文冒頭



表紙



『土左日記』1235年藤原定家写、尊経閣文庫蔵(尊経閣叢刊の複製本)
六半枳形本列帖装

日本最古級の書誌情報

文曆三年し未五月十三日し己老病中
 唯眼心旨不慮之及見紀氏自筆
 本蓮華寺院寶物本

竹紙白紙不折高一尺二寸五分許廣

一尺七寸五分許紙也共六枚五分油

表紙續白紙一枚端折返不立竹

有双題其右日記貫之筆

其之様和寺非別行定行よ書く

新有願字弄下五字字向書後詞

不堪感興自書思く昨今二年日

終功又桑門明辭

紀氏

近長八年任主左守

在國哉五年廿年己由

定年四甲午五し未年甲申

今年し未曆三百一年紙不枯

損て字又鮮明也

不讀得所多以任本也



『土左日記』1235年藤原定家写、尊経閣文庫蔵(尊経閣叢刊の複製本)
 六半枳形本列帖装

日本最古級の書誌情報

文暦二年乙未五月十三日乙巳老病中

雖眼如盲不慮之外見紀氏自筆

本蓮華王院宝蔵本

料紙白紙「不打無堺」高一尺一寸三分許広

一尺七寸二分許紙也廿六枚無軸

表紙続白紙一枚「端聊折返不立竹無紐」

有外題土左日記貫之筆

其書様和歌非別行定行に書之

聊有闕字歌下無闕字而書後詞

不堪感興自書写之昨今二ケ日

終功

桑門明静

紀氏

延長八年任土左守

在国載五年六年之由

承平四甲午五乙未年事歟

今年乙未曆三百年紙不朽

損其字又鮮明也

不讀得所々多只任本書也

日本最古級の書誌情報

文暦二年（西暦一二三五年）五月十三日、老いて病んでおり、眼はあまり見えなくなっていたが、思いのほか紀貫之自筆本、蓮華王院宝蔵本を見ることが出来た。使われている紙は白い紙で、打ち紙でなく、罫線も引かれていないもの。高さは一尺一寸三分（約三四・二cm）ほど、幅は一尺七寸二分（約五二・一cm）ほどであった。全部で二十六枚。軸は付いていない。

表紙は白紙を一枚つないただけ。その端の方を少し折り返しているが、竹は付けていない。紐もない。

外題がある。土左日記貫之筆。

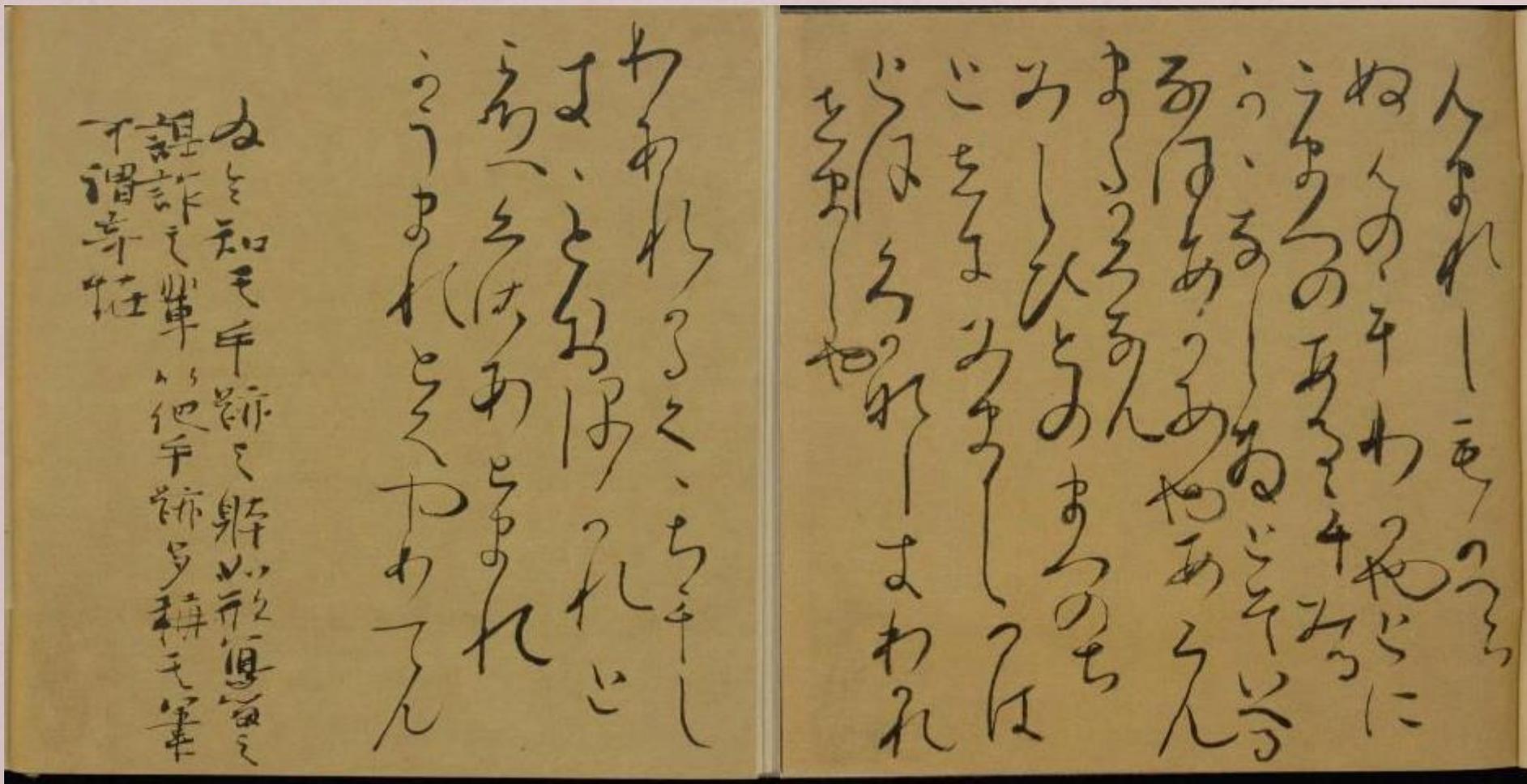
其本文の書き方は、和歌は改行して別行にせず、本文に続けて少し字間を開けて書いている。歌の最後は字間を開けることなく後の本文に続けている。

この本を見られたことに大変感動したので、私自身がこれを書写した。昨日と今日の二日間で書写を終えた。

桑門明静

紀貫之は延長八年（九三〇）土左守に任命された。土左に赴任していたのは五・六年とのこと。承平四年甲午（九三三）か五年乙未（九三四）のことだろうか。今年乙未の年なので、三百一年経ったことになる。紙は朽ちることなく、文字も大変鮮明である。ただし、読めない箇所が多々あるが、それは原本の方を参照して欲しい。

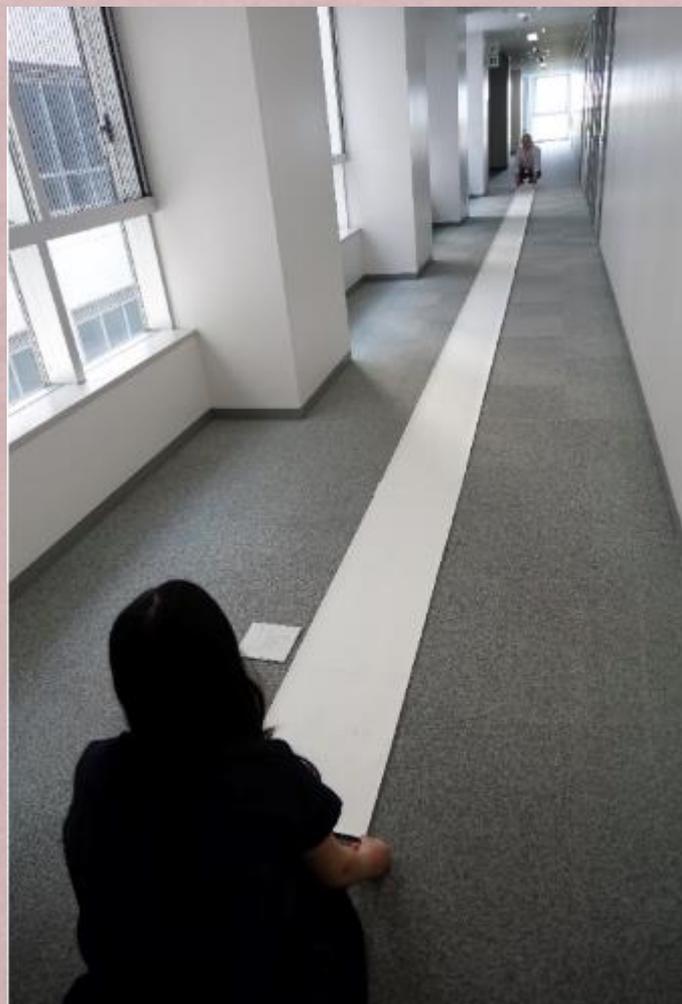
日本最古級の書誌情報



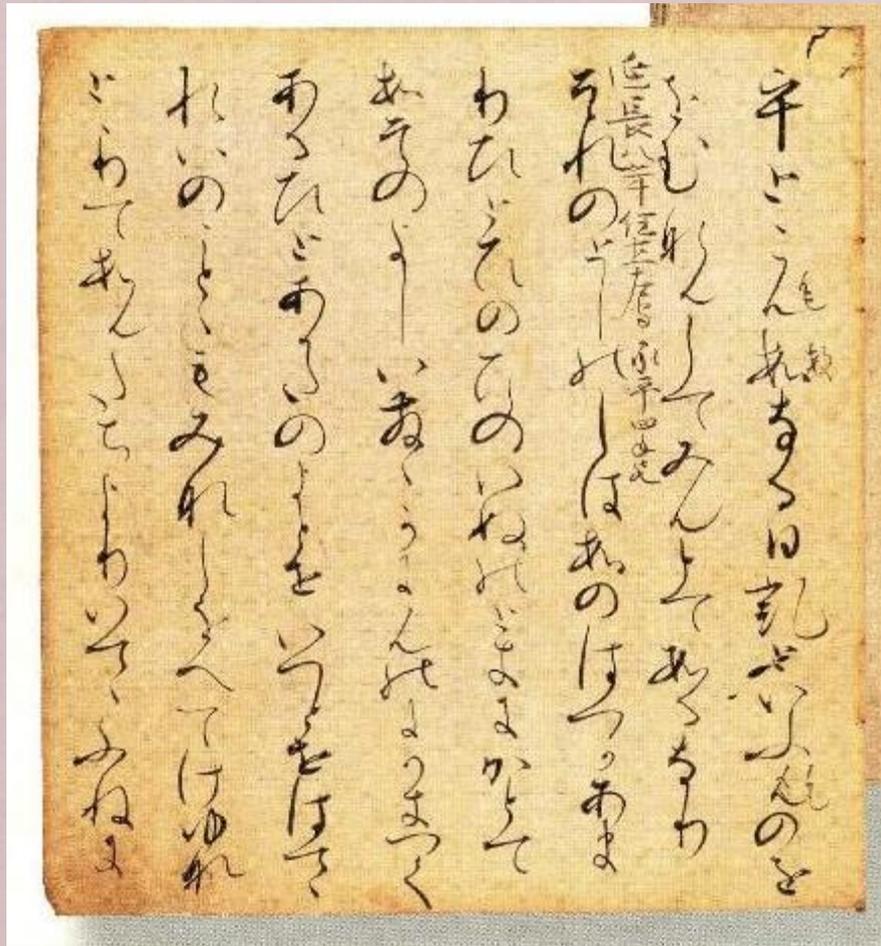
『土左日記』1235年藤原定家写、尊経閣文庫蔵(尊経閣叢刊の複製本による)
六半枳形本列帖装

紀貫之自筆『土左日記』のかたち

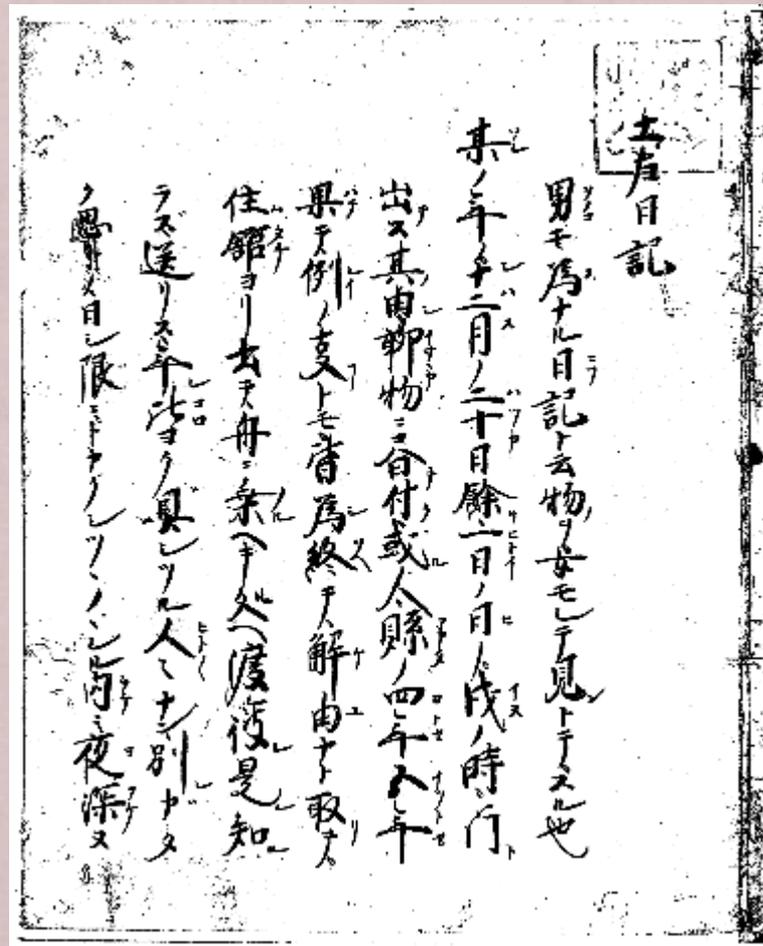
34. $2 \times 1404\text{cm}$ の継ぎ紙を再現してみる。



さまざまな『土左日記』



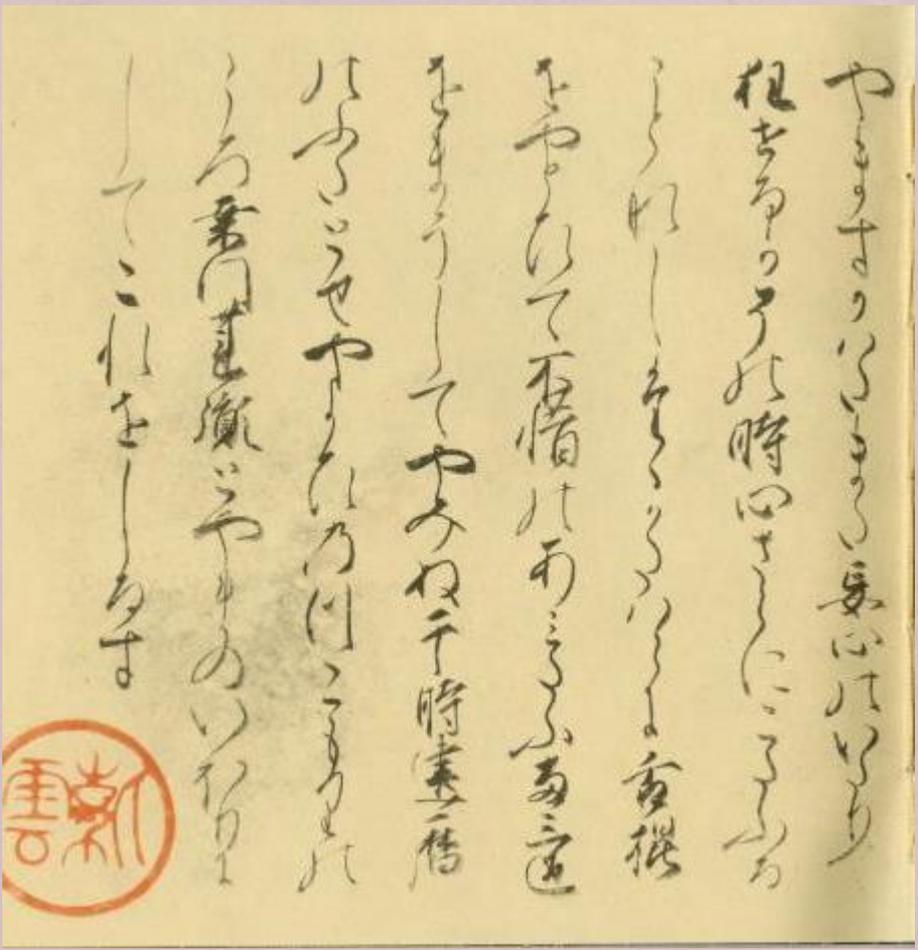
1236年藤原為家写、大阪青山短期大学蔵
六半本枡形列帖装



室町末写、名古屋市蓬左文庫蔵
四半本列帖装

ひらがな本『方丈記』の違和感

(もしこれ貧賤の報みづからな)
やますかはたまた妄心のいたり
狂せるかその時心さらにこたふる
ことなしたゝかたはらに舌根
をやとひて不惜のあみたふ両三返
をまうしてやみぬ于時建曆
のふたとせやよひのつこもりの
ころ桑門蓮胤とやまのいほりに
してこれをしるす

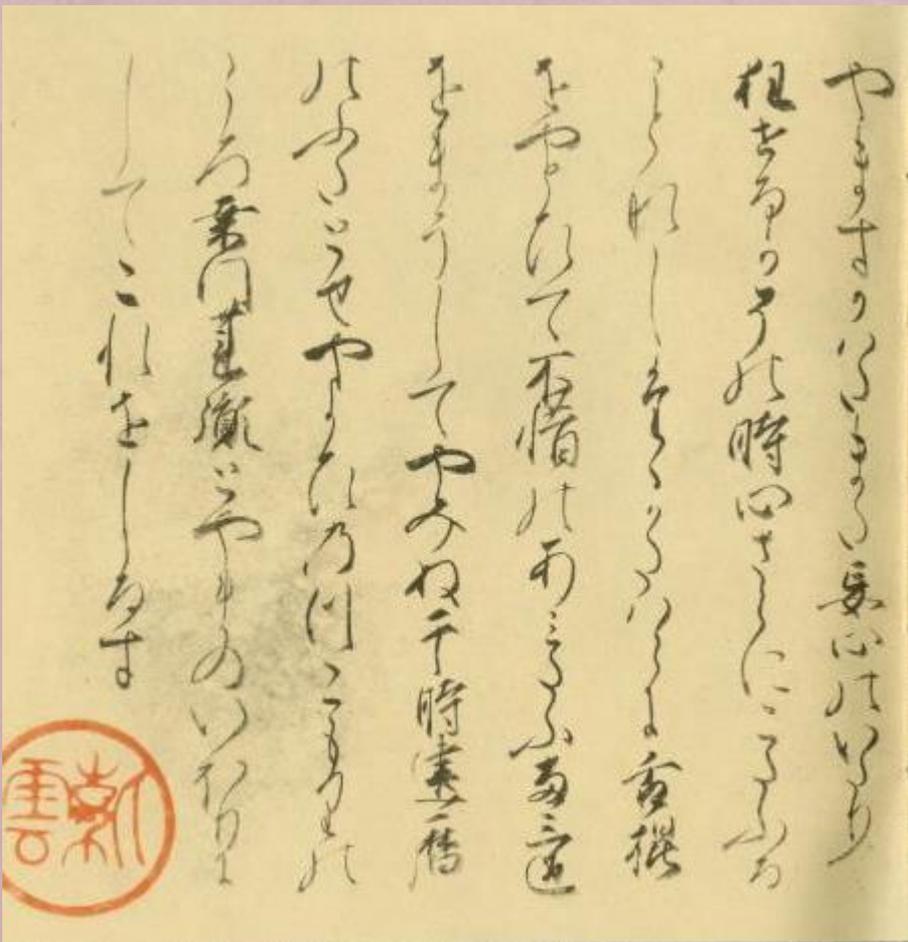


やますかはたまた妄心のいたり
狂せるかその時心さらにこたふる
ことなしたゝかたはらに舌根
をやとひて不惜のあみたふ両三返
をまうしてやみぬ于時建曆
のふたとせやよひのつこもりの
ころ桑門蓮胤とやまのいほりに
してこれをしるす

ひらがな本『方丈記』の違和感

・ひらがなで書かれた散文作品には、題名、著者名、著作年月日などは書かないのが普通。

・ひらがな本『方丈記』に、年月日や執筆した場所、著者名までが明記されていることに違和感がある。



やまのすゝもいふもいふ心はいりし
ねぢるのうらみ時回すもいふもいふ
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふも

古典籍のかたちの持つ意味

- ・古典籍のかたちは、その作品の執筆意図や受容のあり方と密接に関わっている。
- ・東アジアにおける古典籍のかたちは、すべて中国に起こり周辺諸国へと伝わってきた。しかし、中国や朝鮮半島では新しいかたちが出来るとほぼすべてが新しいかたちに変わってしまう。
- ・新しいかたちを採り入れる一方、古いかたちをも残し続けたことが、日本の特徴と言える。

古典籍のかたちの持つ意味

・装訂の格式

卷子本(折本) > 粘葉装 > 列帖装 > 袋綴

卷子本 > 冊子本(草紙・草子)

・表記の格式

漢字 ≧ カタカナ > ひらがな

古い > 新しい (出現順)

古典籍のかたちの持つ意味

卷子本 > 冊子本(草紙・草子)

『枕草子』

『方丈記』

『徒然草』